



カトリック札幌司教区

札幌カリタス通信

August 2005 No. 7



—第1回カトリック社会福祉施設のあり方の会合 2004年12月6日—

高齢化社会、少子化社会に突入した今、社会的にも大きな転換期に入ろうとしている。戦後の「団塊の世代」が退職年齢に達し、退職金や年金支給の時代を迎え、高齢化福祉の深刻さはすでに日本社会を不安に陥らせている。経済市場は大きな変動を引き起こし、高齢者商品の増加、少子化に伴う労働力不足など高齢化社会に注ぐ財源は間違いなく拡大する。しかし、本来の社会福祉における見直しは半歩状態で遅れているのが現状だ。ある学生がコンビニエンスのレジでアルバイトをしていた時に遭遇した高齢化社会の実相がある。「お菓子の袋を開けておいて下さいませんか」「ペットボトルの蓋がきついので緩めておいて下さいますか」「買い物の荷物が多いため2回に分けて運びたいので、預かって下さいますか」……これから先、店を訪れる人々の大半が虚弱な高齢者や障がい者が増えてくることは予測するまでもない。だからといって、高齢化社会における社会福祉は、従来の受身だけの支援にとどまってはならない。まして高齢化であっても少子化であっても生きがいを忘れてはならないと思う。人間は、積極的に心身ともに生かされなくてはならない存在だからである。

・・・・・・・・ 目 次 ・・・・・・・・

報 告	札幌カリタス運営委員会報告	①-③
	カリタス家庭支援センターの一年	③-⑤
行 事	社会福祉シンポジウム開催	⑥-⑦
	「札幌教区のカトリック社会福祉のあり方」についての会合開催	⑧-⑨
お知らせ	援助金交付団体の活動情報	⑨-⑩
	献金者名簿	⑪

札幌カリタス運営委員会報告

カトリック札幌司教区 札幌カリタス

運営委員長 場 崎 洋

昨年12月に初会合を開き、今年6月に第2回の「札幌教区のカトリック社会福祉のあり方」について分かち合いの場をもちました。

高齢化と少子化の波で、特別養護老人施設・障がい者施設・保育所などにいろいろな形で影響を及ぼしています。すでに、介護保険が施行されて記憶に新しいことですが、介護福祉が多様性をもちながらも、かなり複雑化している機運があります。また、保育所に関しても財源上の理由から幼保一元化への構想が強まっているものの、文科省と厚労省の折り合いがうまく行かずに関連施設に不安を投げかけています。

日本におけるカトリック社会福祉施設の発展には、宣教会や修道会の果たした業績は大きいものでした。しかし、時代の流れで宣教における社会福祉の役割について再確認が急務です。わたしたちは、この半世紀で社会生活に深刻な「三間の貧困」といわれる「空間の貧困」「時間の貧困」「仲間の貧困」を生じさせ、人間関係の希薄化が問題となっています。子どもたちが育っていく土壌や空間が損なわれ、遊びの伝授が乏しくなってきたこと（空間の貧困）。受験戦争や企業戦士が常識となり、時間が奪われていく現代人の姿（時間の貧困）。子どもの個室化や核家族化に伴うコミュニケーションの欠如（仲間の貧困）。これらの貧困が、人間性を歪め、相互愛における社会福祉を乏しいものにしています。

昨年春に開設したカリタス家庭支援センターの役割も、教会という狭い組織に固執することなく、社会の陰で足掻き苦しんでいる人々と共に関わっていくために、教会としての使命を果たすお手伝いをしてもらっています。教会の窓として、良きコーディネーターとして、今後も実り豊かな働きをして頂くことをお祈りしています。不安な時代に生きている私たちですが、皆様のご支援を頂きながら、希望の光に向かって歩んで行きたいと思えます。

1. 札幌カリタス 一般会計 2004年度決算 (2004年4月1日～2005年3月31日)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
寄 付 収 入	2,200,000	1,706,836	諸団体援助費支出	2,265,000	2,105,300
利 息	1,000	985	広 報 費 支 出	150,000	139,250
積立取崩金収入	0	0	行 事 費	150,000	0
			旅 費 交 通 費	10,000	0
			事 務 経 費 支 出	50,000	50,765
			援助積立繰入支出	1,500,000	842
			予 備 費	300,000	0
計	2,201,000	1,707,821	計	4,425,000	2,296,157
前年度繰越金	4,046,886	4,046,886	次年度繰越金	1,822,886	3,458,550
合 計	6,247,886	5,754,707	合 計	6,247,886	5,754,707

2. 札幌カリタス2005年度事業計画

5月・2005年度援助金の交付

6月・運営委員会

・「これからのカトリック社会福祉施設のあり方と方向性について」の会合

7月・社会福祉シンポジウム／ボランティア・ネットワーク共催

「生命特許は許されるのか」講師:コロンバイン会の司祭 ポール・マッカーティン師

・札幌カリタス献金のお願い（文書、チラシ、ポスター）

8月・カリタス通信（No.7）の発行

・札幌カリタスの日（28日）

12月・2006年度援助金申請書発送、申込み受付開始

1月・2006年度援助金申請締め切り（1月末）

2月・運営委員会、援助審査会

3. 札幌カリタス 一般会計 2005年度予算（2005年4月1日～2006年3月31日）

収入の部			支出の部		
科目／年度	2005年	2004年	科目／年度	2005年	2004年
寄付金収入	2,200,000	2,200,000	諸団体援助金支出	5,600,000	2,265,000
			広報費支出	150,000	150,000
受け取り利息収入	1,000	1,000	事務経費支出	50,000	50,000
積立金取崩収入	1,000,000	0	行事費支出	150,000	150,000
			旅費交通費支出	10,000	10,000
			チャリティー実行委支出	50,000	0
			積立金組入支出	0	1,500,000
			予備費	200,000	300,000
(計)	3,201,000	2,201,000	(計)	6,010,000	4,425,000
前年度繰越金	3,795,000	4,046,886	次年度繰越金	986,000	1,822,886
合計	6,996,000	6,247,886	合計	6,996,000	6,247,886

4. 2005年度援助交付金決定額

2005年度の審査結果は次の援助団体一覧の通りです。

ボランティア・ネットワーク	200,000円	カトリック労働者連盟札幌地区	150,000円
地域共同作業所ニムビン	300,000円	地域共同作業所 キャンドルハウス	150,000円
NPO 法人札幌マック	300,000円	カリタス家庭支援センター	300,000円
NPO 法人札幌マック女性共同作業所	249,000円	北海道ダルク	300,000円
札幌JOC(カトリック青年労働者連盟)	150,000円	ゆみな共同作業所	196,675円

申請総額 5,596,675円 援助総額 2,295,675円

※カリタス家庭支援センターのニーズが高まり、専門相談員の人件費として、特別援助を検討中である。

5. 規約改正及び事務局長の選任

次の通り、規約、内規の改正を了承し、運営委員を1名増員し新たに事務局長を配しました。

(1) 規約改正 (2005年2月28日付け)

- ① 事務処理の円滑化を図るために事務局長を選任し、事務局長は運営委員の中から選任されることに伴い、第6条1項の規約で運営委員の人数を7名以上とする。
- ② 第3条の目的条項並びに第4条の事業条項における、「社会福祉活動」を「活動」と改める。
- ③ 第4条の(6)「その他」を「その他本会の目的を達成するために必要な事業」とする。

(2) 内規の改正 (2005年2月28日付け)

- ① 第2条(1)「法人への援助は行わない。」に「但し、NPO法人は除く」を追加する。
- ② 第2条(8)その他は削除する。

(3) 事務局長の選任 (2005年2月28日付け)

事務局長 佐藤 秀雄 (札幌司教館事務局次長)

カリタス家庭支援センターの一年

2004年5月の開設から一年の現状をご報告させていただきます。

カリタス家庭支援センターは、札幌司教区、札幌カリタス、小教区、修道会、諸団体、市民の皆様のご支援を頂き、初年度の活動を順調に進めることが出来ました。

札幌司教区および札幌カリタスからの開設準備金をはじめ、小教区、修道会、市民の皆様から、予想以上の会費とご寄付を頂きました。バザーの売上金、黙想会や研修会の献金、個人の方からお祝いの分かち合いや匿名を条件としての12年間貯めた貯金箱、カリタス支援コンサートなど・・・皆様がセンターの活動に寄せて下さる期待と支持、暖かい励ましをここから感謝いたします。

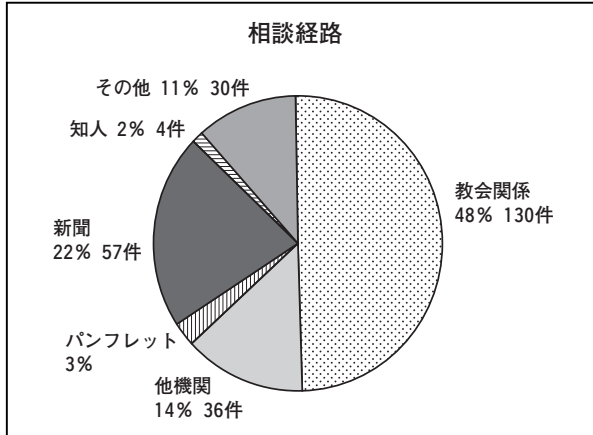
1. 相談・支援状況 (2004年4月～2005年3月)

相談		月												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
相談者	人数	2	12	53	17	18	22	27	18	16	24	24	32	265
	件数	3	19	115	86	88	69	62	44	29	35	44	34	628
相談方法	来所	0	8	20	14	20	24	12	14	18	10	10	10	160
	電話	3	11	82	54	61	38	44	26	8	20	31	24	402
	訪問	0	0	13	18	7	7	6	4	3	5	3	0	66
終 結		0	7	44	5	15	16	30	14	12	23	17	17	200
次月繰越		2	7	16	28	31	37	34	38	42	43	50	65	

2. 相談地域

札幌市をはじめ、小樽、旭川、北見、砂川、稚内、江別、北広島、岩見沢、釧路、帯広、苫小牧、函館等北海道全域。東京、千葉、茨城、九州からの相談も寄せられています。

3. 相談にきた経路 265人(男44人 女221人・実名220人 匿名45人 2004年4月～2005年3月)



<相談者>

教会関係者紹介のうち

信者 86/130 66%

一般市民 44/130 34%

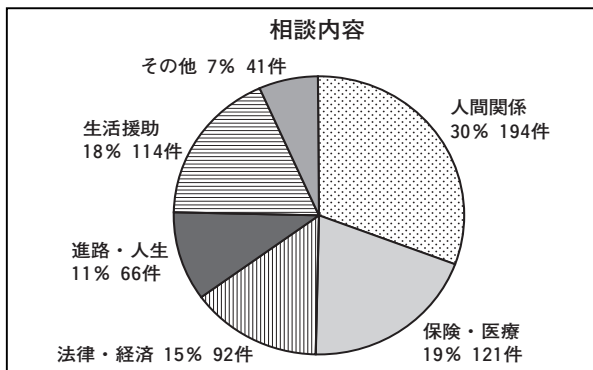
相談者265人のうち

信者 86/265 32%

一般市民 179/265 68%

新聞報道によるものは昨年6月に集中しましたが、3月現在数件続いています。他機関からの紹介が増え、10月からは電話帳を見ての電話が増えています。

4. 相談内容 (2004年4月～2005年3月)



カリタス家庭支援センターの特徴は、民間の相談機関であること。各分野を網羅した総合的な相談支援が出来ること。具体的で迅速な対応が出来ること。行政機関、医療機関、教育機関、他地域の関係機関との連携を持ち、必要に応じて相談者の了解のもとに支援体制をとることができる。

- 人間関係** 親子、家族、夫婦間の葛藤、引き籠り、家庭内暴力など。「私の家は、どうしてこうなの？」というような、大ごとではないけどちょっと気になることなども・・・。
- 保健医療** 病気の心配、医療不信、病院など医療機関との関わり方など。入院、退院、病院のかかり方、付き添い、介護、在宅療養の支援の仕方など。
- 法律経済** 離婚、サラ金、暴力からの身柄の保護など。離婚に至るまでの状況・気持の整理・離婚後の身の振り方や生活設計の立て方、サラ金など多重債務の整理の仕方、暴力からの緊急避難など。
- 進路生き方** アルコール・薬物・ギャンブル依存症者の社会復帰、生活の建て直し、進路決定など。生活する上での生きにくさ、不自由さを抱えている。依存症かどうかわからない、専門機関へ行くのに抵抗があるなどの、当事者と家族の状況分析、気持の整理。
- 生活支援** 高齢者・障がい者の地域生活のための環境整備、無住所の方の社会適応・自立支援など。
- その他** 自分の生活時間に合わせて「教会の勉強」をしてほしい、居場所を求める方の支援など。

5. 支援体制

相談員	ソーシャルワーカー 2名 (社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の有資格者2名)
	相談スタッフ 4名(全員が対人援助の専門教育を受けている)
事務局スタッフ	7名(相談スタッフと重複者有り)
運営委員 = 8名	監事 = 1名 会員 = 57名 賛助会員 = 32名

6. 活動日時

月曜～金曜	午前9時～午後5時(相談受付は、午前10時～午後4時)
場所	聖ベネディクトハウス一階(札幌市中央区北1条東6丁目10)

7. カリタス家庭支援センターの目指すところは

キリスト教の価値観に基づいて、生活問題に総合的に対応する相談・支援機関として、社会の中で、苦しむ人々の叫びに耳を傾け、ともに、支えあい、今を生きること。

そして、生活の中の具体的な事柄を通して、生き方を分かち合い、一人ひとりがかけがえの無い存在であること、神と人から愛され、必要とされていることを確かめ合うことです。

8. 小教区との連携

それぞれの教会で、相談・支援活動をされている方々に、社会福祉の情報提供や、個々の状況の分析、関わり方など、お手伝いをする事が出来ると思います。

障がい者の、個別的、日常的な不自由さを役所にわかってもらえないために、福祉サービスが受けられない状況であったり、訴えれば訴えるほど、わがままと受け止められてしまう悲しさを、個人の問題としてしまわずに、行政が個々の状況に応じてきめ細かな福祉サービスを提供できるように、理解してくれる仲間を増やしながらかけていく。そんな活動を小教区の信徒の皆さんとネットワークを組み、一緒に出来ることを願っています。

この相談・支援活動が札幌司教区全体の活動となって、地域社会の中で教会共同体の社会的役割を果たしていくことが出来るように、皆様のお祈りとご協力・ご支援をお願いします。

カリタス家庭支援センター 連絡先

〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10 聖ベネディクトハウス 1階
相談専用電話 011-252-5766
事務局の電話 011-261-2188 F A X 011-252-5488

スタッフからのメッセージ

専門のソーシャルワーカー2名と、対人援助の専門教育を受けている相談スタッフ4名が、月曜から金曜の10:00～16:00(事務連絡は9:00～17:00)の間、皆様からのご相談にのっております。電話または、センターに来所頂き、気軽にご相談下さい。あなたと一っしょに新しい道が見いだせる筈です。一緒に小さな希望の光を見つけることから始めませんか。そして、一緒に少しずつその光を大きなものとしていきませんか。

社会福祉シンポジウム開催

ボランティア・ネットワーク共催／於：札幌働く人の家

「生命特許は許されるのか」のテーマで、2005年7月5日（火）開催



ポール・マッカーティン司祭（聖コロンバン会）と日本で有機農業を行っているレイモンド氏を招いて、ボランティア・ネットワークとの共催で社会福祉シンポジウムが行われました。先進国の一部の企業や研究所が生命特許を申請して、莫大な利益を得つつあります。しかし、全て命あるものは誰の所有物でもありません。

こうした特許制度は、相互に関連し合い依存し合っている全てのものに、神から贈られたもの、という命に関する考え方に、真っ向から対立するものです。

マッカーティン司祭は「生命に特許はいらないキャンペーン」を展開しています。まず、マッカーティン司祭のお話の内容を要約して紹介致します。

生命特許とは何でしょうか

本来、工業製品の発明に対して与えられている特許が、対象を拡大して生命の分野にまで摘要されています。たとえば、分離された遺伝子は特許の対象になります。自然界にあるものを発見しただけで、特許をとれるのはおかしいと思いませんか。酸素などの元素を分離して特性を解明しただけで、その元素の創造者として、20年の独占の特許権が与えられると誰も考えないと、リフキンという文明評論家は言っています。

このように、最近まで発明者や企業の経済的利益よりも、公共の利益に重きがおかれていたのです。しかし、1987年のWTOのトリプス（TRIPS）協定以来、植物・動物・微生物・遺伝子を含む生物資源についての知的所有権に関する基準の採用を義務づけたのです。



マッカーティン師

貧しい人たちに薬がいかない、作物の種子も毎年特許使用料がかかる

アフリカ諸国が、エイズの高価な薬を自国で生産したいと求めた時も、製薬会社は特許を盾に高価な特許料を要求したのです。しかし、2001年の炭素菌のテロ騒ぎの時は、抗生物質シプロの特許解除を検討し、薬の大量生産のために特許を解除しました。こうした行為をみれば生命特許は、先進国中心の貧しい人々を拒む制度であることが分かります。

また、貧しい国は、代々の種子までも特許使用料のために、先進国の企業に依存して搾取されるのです。そして、このようなバイオ種子は、まだ安全性が確かめられてはいません。

遺伝子組み換えの危険性

モンサント社の遺伝子組み換えトウモロコシは、ネズミに食べさせると腎臓に問題ができました。これは会社の内部告発で、イギリスの新聞に載りました。また、日本の科学者の実験ではネズミが暴力的になったといえます。

魚とトマトの遺伝子の交配など、自然界にない組み合わせが、将来どんな危険性がある

のか予測できません。

クローン羊のドリーは、五歳で関節炎になり、六歳で肺がんのため安楽死させられました。クローン技術のため何らかの遺伝子異常が起きたことが考えられます。しかも、ドリーが誕生するまでに、277個の胚（命の種子）が使われ、多くが失敗したのです。

命を特許の対象にすべきではありません

遺伝子の一つ一つに様々な機能があり、複数の遺伝子が一つの機能を定めることもあり、まだまだ予測できないことなのです。このように、生命特許やバイオテクノロジーは多くの問題を含んでいます。バイオテクノロジーを用いて生産される製品や技術は、特許制度とは別の何らかの方法が作られなければなりません。

そして、生命は人間の「創造物」ではありません。

私たちは、命の多様性や環境を大切に、農業を守り貧困を断たねばなりません。

続いて、日本で有機農業を行っているアメリカ人でメノナイト教徒のクリスチャンのレイモンド氏のお話の要約を紹介します。



レイモンド氏

25年前の兵役の時、国外に住んでいたら兵役につかなくてもよいので、カナダの大学で農業を学びました。（メノナイトは戦争反対なのです）その時、カナダの農村を回って話を聞くことができました。はじめは話してくれませんでした。段々と心を開いてくれました。農家の人は借金を背負い、自殺、家庭内暴力、子どもの反抗など、たくさんの問題を抱えていました。

何故、そういうことが起きるのか。経済的な問題で心に怒りを抱えていたのです。さまざまな問題が農業を取り巻いています。2003年に、北海道農業試験場で遺伝子組み換えの稲の実験をしていました。その時、試験場の人は他の畑と離れているので交雑の心配はないと言いました。しかし、実際には500メートル離れた所で遺伝子組み換えの稲を植えられると交配の危険があります。何のための実験か。寒冷地向けの稲の実験がこれから必要なのか。

私は百姓です。5ヘクタールの土地で、人と人が和解するような農業を目指している有機農家です。研究者は、自分の実験について、生命特許について、しっかり勉強してほしいと思います。

以上、マッカーティン神父様とレイモンド氏は、丁寧に分かりやすくお話してくださいました。

生命特許という言葉も良く知らない私たちは、今、世界で新たな南と北の問題が起きていることを知りました。さらに、詳しくお知りになりたい方は下記にご連絡下さい。

【お問合せ先】

聖コロンバン会 ポール・マッカーティン神父様 E-mail:noseimeitokkyo@r01.itscom.net

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀4-1-10

TEL 03-3439-7792 (直通) 03-3427-9427 (代表) FAX 03-3439-7754

「札幌教区のカトリック社会福祉のあり方」についての会合開催

第1回会合 2004年12月6日（月）に開催

午後1時から、地主司教様はじめ関連施設の理事長・施設長・園長等が19名参加して、聖ベネディクトハウスにて開催される。

当日は、

- ① 札幌教区における社会福祉の現状
- ② 各施設のかかえる問題点
- ③ 今後のカトリック社会福祉施設の方向性などについて話し合われた。

地主司教様から挨拶を頂き、各施設の設定経緯が語られ、修道会が運営している施設以外は司祭個人がはじめたものがほとんどであることや、経営が難しい場合は思い切って経営を引き受けてくれる法人に移管するなどの決断も必要ではないかと述べられた。

会議では、各施設からそれぞれの現状や問題点がだされ、キリスト教的社会福祉のあり方や、その考え方をどのように職員に浸透させていったらよいか、措置費から支援費への変革の時期の経営改善方法等が議論された。これからも、定期的に会合を設けて質疑を重ねていくことが大切であると共通認識を得て、札幌カリタスを事務局として年に数回実施していくこととした。



第2回会合 2005年6月20日（月）に開催

午前10時から、地主司教様はじめ関連施設の理事長・施設長・園長等が18名参加して聖ベネディクトハウスにて開催される。

司教様のお祈りと挨拶から始まり、行政は経済面からのみ言ってきているが、内容が大切であり、そのことにカトリックが一番最初に気づくべきで、現在の施設運営を見直すべき時かもしれない。個人を見て、その人が喜んで生活していくことが大切で、親切に全部やるよりも能力を発揮できるように、助け方について考えていただければ有難い旨が述べられる。

その後、午前中は、ケーススタディとして「今抱えている問題点とその対策」についてと題し、雪の聖母園 上坂 隆一 園長から、措置費から支援費への変革の時期に園長に就任し、経費節減（収入増）と人財（材）の確保と育成に力を注いだことや、職員の意識改革として、変えてはならないものと、変えなければならないものの明確化に務めたことなどが、数字的なことや事例を出しながら発表がなされた。

午後からは、「これからの社会福祉のあり方」について討議され次のような意見が出された。

- ・経済的に困っている人のケアも大切であるが、現在は心のケアが大切で、こちらを中心にシフトしていくべきではないか。家庭の貧困からくる場合もあるが、家庭の子育てをきちんと見据えた取り組みが大切である。
- ・社会にニーズがあるが、取り扱い方が分からなかった部分があり、カリタス家庭支援セ



ンターで本来教会が担わなければならなかったその部分を取り上げることが出来てきている。

- ・カトリックが運営している施設が札幌市に無いので、これらをサポートしていくことが出来ないのが実情である。ネットワーク化していけばより良いのではないか。
- ・1年もしくは2年に1回程度は、施設職員の宗教教育を神父様方をお願いしていくことが大切で、利用者はもとより職員に学んでもらう必要性がある。神父様方が忙しいとはいえそれ位の時間は取れるだろう。
- ・障がい児がいることが当たり前なので保育目標を大きく変更した。「元気で明るい子」から「子ども一人一人が大切にされていると実感できる保育」とし、年3回位、自分たちがなさねばならない使命とは何か考えるようにしている。4年がかりで勉強している。
- ・子育ては親が基本なので親を育てていく必要性を感じ、お迎え時などを利用して行っているが、参加者は少数である。
- ・今まで、神父様のカリスマ性に負う所が大きい。後援会にしても神父様個人のために入っているという方も多い。しかし、神父様の創った老人ホームの精神的環境（毎日の講話など）を継承していくことは難しい。しかし最近、神父様の考え方をまとめて、職員に本当のケアを学んでもらうようにし始めた。どのように引き継いで理解していくか心配していたが、その方向で動いているような気がする。
- ・あるシスターがカウンセラーのカウンセリングを行ったように、スーパーバイズできるような人が現れたら良いだろう。
- ・カトリック施設以外の人から、どのように見られているかを聞くことも一つの方法ではないか。

時代の流れに応じて、宣教における社会福祉の役割についての再確認が急務であると同時に、カトリック社会福祉施設の果たすべき役割を再認識し、皆様から情報や資料の提供を受けながら、相互に協力し合い、活動や運営基盤を磐石で普遍なものとしていく必要があるだろう。

援助金交付団体の活動情報

今回は、2005年5月に札幌カリタスから援助金を交付しました団体の活動内容をご紹介します。

① ボランティア・ネットワーク（札幌市厚別区）

イエスの福音に基づき、社会への洞察を深め、社会福祉の理念を追求し、実際のボランティア活動を通して、その精神を学び地域福祉の推進に協力することを目的とし1990年7月に設立する。活動として、福祉施設の訪問、ホームレス炊き出し、エイズベビークルトづくり、講演会、福祉イベントへの協力を行っている。

② 地域共同作業所 ニムビン（旭川市）

旭川6条教会の信者が、高等養護学校を卒業するにあたり、知的障がい者の社会での受け入れ先として旭川の信者が中心となり2001年4月に立ち上げた施設で、キリスト教の精神を伝えることを軸に据え、指導していくことを目的として活動しています。

③ NPO法人 札幌マック（札幌市白石区）

社会で苦しんでいるアルコール・薬物依存症者の回復と社会復帰を手助けすることを目的として1982年3月に設立した施設である。現在、マック共同作業所に16名の通所者、マックハウスに13名の入所者がおり、回復と社会復帰を目指している。

- ④ NPO法人 札幌マック女性共同作業所（札幌市白石区）
2002年4月に設立された。アルコール・薬物依存症をはじめ、その他の依存症の問題を抱える女性の依存症者が中心に通所し、1日3回のミーティングを通して回復と社会復帰の実現を目指し、一人の社会人として生活していくための援助を行っている。
- ⑤ 札幌JOC（カトリック青年労働者連盟）（札幌市白石区）
世界的な組織の札幌支部で1983年に設立された。キリスト教精神に基づき、諸活動を通して青年労働者の育成を行っている。
- ⑥ カトリック労働者連盟（CWA）札幌地区（札幌市白石区）
全国組織の札幌地区組織で1991年8月に設立された。各自の生活と職場の現状を分かち合い、各自がおかれた場でキリスト教の価値観に基づいた生き方を体現していくにはどのようにしたら良いかを話し合い、家庭や職場をより良く変えていくための実践的活動を行っている。
- ⑦ 地域共同作業所 キャンドルハウス（札幌市清田区）
精神障がい者の社会復帰を支援するために1995年7月に設立された通所施設である。社会性を身につけることや友人作りなどの自立への力をつけるために、キャンドル作りやパソコンの初歩学習などの作業指導、昼食作りなどの生活指導、卓球や美術館めぐりなどのレクレーション指導を行っている。
- ⑧ カリタス家庭支援センター（札幌市中央区）
キリスト教の価値観をもって、家庭の生活問題に総合的に対応するために2004年5月に設立される。専門のソーシャルワーカーが相談・支援する機関です。詳細は、今号の1年間の報告記事を参照下さい。
- ⑨ 北海道ダルク（札幌市中央区）
薬物依存症の回復を支援する専門のリハビリ施設として2004年10月に北海道としては始めて札幌市中央区北1条東6丁目に設立される。入所によるケアと通所によるケアが行われ、病院や行政機関、教育機関と連携し、適切な回復プログラムが提供されている。
- ⑩ ゆみな共同作業所（千歳市）
心身障がい者が有意義な地域生活を送れるように支援するために2002年10月に設立された。少人数の良さを生かした「仕事」「健康づくり」などを、さき織り・手芸品作成・洋服リフォーム・石鹸包装農産物販売などの様々な活動を通して、その人がその人らしい豊かな地域生活が出来るように支援しています。

その他にも、様々な諸団体があり、それぞれに有意義な目的を掲げて活動をなさっています。札幌カリタスは、キリスト教精神に則り、札幌教区内の福祉活動を支援していきたいと考えます。

札幌カリタスの事業

- ① カトリック札幌教区における社会福祉活動の推進
- ② 福音に根ざした社会福祉団体や社会福祉活動への資金援助
- ③ 援助資金のための募金活動
- ④ 関係諸団体相互の情報交流

援助申請方法

毎年12月1日から申請書類を配布いたします。巻末の事務局へお問合せ下さい。

日頃からの札幌カリタスの活動に対する皆様のご援助・ご協力に心から感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

教会

岩見沢、恵庭、江別、大麻、北1条、北11条、北26条、北広島、倶知安、小野幌、新田、千歳、月寒、手稲、富岡、花川、真駒内、円山、山鼻、住ノ江信徒会、北1条チャリティー委員会、旭川5条、旭川6条、枝幸、大町、神居、士別、末広（ミニバザー）、砂川、名寄、富良野、稚内、当別、宮前町、湯川、厚岸、池田、釧路、表町、静内、新富町、伊達、登別、東室蘭、室蘭、遠軽、北見

修道会

殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会、天使北広島修道院、天使第1修道院、ベネディクト修道院、十勝カルメル会、伊達カルメル会、トラピスト修道院、トラピスト修道院、聖心会、シャルトル函館修道院、聖心布教姉妹会旭川修道院、聖心の布教姉妹会砂川修道院、ヴィアンネ会旭川修道院、聖母カテキスタ会札幌地区

団体、個人、外

足達雅子、谷口房子、山本蓉子、室蘭ブロック壮年大会、天使病院

編集後記

皆様のご支援・ご協力により今年度も有意義な一年を送ることが出来たと考えております。札幌教区内で福祉活動を行っている諸団体は数多くあり、それぞれに目的をもって活動をなさっています。札幌カリタスは、キリスト教的考えにたち、これからもこれら諸団体に有意義な活動を行っていただくために、資金的な援助をはじめとした様々な支援を行って行きたいと考えております。今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。

[札幌カリタスへの献金 振込口座]

郵便振替口座番号 02740-8-35329

振替口座名義 札幌カリタス

宗教法人 カトリック札幌司教区

札幌カリタス

〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10 カトリック札幌司教館

TEL 011-241-2785 FAX 011-221-3668

E-mail dio-office@csd.or.jp <http://www.csd.or.jp/charitas/>